

### いのちの絶対価値 (マルコ 3:1-6)

信者になったのに、利害関係でつまずき、プライド争いに走ったり、人がどうか、条件、状況、環境で落胆したりするのは、理由がどうであれ、いのちの祝福と価値に無知なのか、鈍いからそうならざるを得ないのだと気づいて認めましょう。今日、いのちについて無知なパリサイ人たちとイエス様との話から、いのちについて無知なことがどれほど愚かで恐ろしいことなのかを見ましょう。

**いのちが絶対必要であり、価値があることを知らない、いのちと違うことに執着してむなしい人生になります。**人は、他の動物とは違って、神のかたちに創造されました。それは、他の動物にある「命」だけではなく、人間にはもう一つ「いのち」が与えられたと言うことです。神様は他の被造物とは違って、人間には鼻から息（聖霊）を吹き込まれました。創造主である神様が内に住まれ、ともにいて、肉はそれによって生きるのが人間の本来の姿です。最初人間アダムが、いのちを失ったあと、全人類は生まれながら、ひとつの「命」しかないものとなりましたが、その事実を人は知りません。神様は最初人間アダムに「善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」(創世記 2:17)と言われました。悪魔の誘惑によって、善悪の知識の木から取って食べた人間は、神様が言われたとおり、その場で「霊のいのち」失って死んでしまいました。しかし「肉の命」があって動いているので、人間は死んだということが分かりません。「霊のいのち」が死んで、神様の霊が人間から離れてしまいました。罪からの報酬は死です(ローマ 6:23)。「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって」(エペソ 2:1)と言われているように、アダム以来、全人類は死んだ状態です。そして、人生

の支配者であり主人が悪魔になっています(ヨハネ 8:44)。神様からの祝福を受けるべき人間が、御怒りを受けるべき子となってしまいました(エペソ 2:3)。そして、肉の命も死ぬときを迎えると、さばかれて地獄に行く運命となりました(ヘブル 9:27)。生きている間、霊が死んでいるので、苦しみの人生で、精神、心、人生のあらゆる部分が一瞬、死の陰に制せられて生きるしかないのです。苦しいので、宗教、偶像、シャーマン、麻薬に頼りますが、効果は瞬間的です。他に道がないので、さまざま執着する人生になるしかないのです。なにをしても、霊が死んでいるので、自分中心、肉がすべてで、世に溺れて生きるしかありません。この真相は、聖書にしか暴かれていません。死んだまま生まれ、死を抱え生きる滅びの運命です。

そのような人間に必要なのは、「いのち」です。絶対にいのちが必要ですが、大学教授、カウンセラー、医者、政治、福祉、愛情などどんなものも、いのちを与えることはできません。いのちを与えるのは、いのちの主であり、創造主である神様だけです。その神様が、私たちを愛して、いのちを与えると約束してくださいました。女の子孫が来られ、蛇の頭を踏み砕く(創世記 3:15)と約束されたキリスト以外には、いのちは与えられません。世に来られ、十字架で死に、復活されたイエス様こそキリストです。イエス様はご自分がいのちであると語られました(ヨハネ 6:53)。

どうすればいのちに預かれるのでしょうか。修行ではありません。世のことは、いのちとは無関係です。イエス様ご自身がよみかえり、いのちで、イエス・キリストをだと信じると永遠に生きると言われ(ヨハネ 11:25-26)ご自分が道であり、真理であり、いのちだと言われました(ヨハネ 14:6)。イエス・キリス

トを通していのちを取り戻し、神様の霊が私たちの内に来られるようになるのです。安息日は、キリスト・イエスの中でいのちを得られるので、そのいのちの中で安らぐことを覚える日です。しかし、それが分からなかったパリサイ人は、いのちを消そうとしました。いのちのことが分からないと、何かに命がけになります。パリサイ人には、それは律法でしたが、私たちが道徳、倫理、思想やイデオロギー、お金、人の愛情、自分のポリシー、絶対に譲らない主張、伝道心の傷に執着することがあります。霊的事実が分からないと、執着するしかないのです。聖霊と御座の祝福が心と思い、たましいに臨むように祈り、執着しなくて良いことに気づくようにしましょう。

執着すると、当然、**命がけになっていることがあります。それを正面から否定されると、いのちをつぶしにいけます。**律法が神様のものだと思って命をかけていたパリサイ人たちは、安息日に正反対のことをしたイエス様を殺そうと考えました。歴史はこの繰り返しです。カインがアベルと殺したのも、ヨセフの兄たちがヨセフを殺そうとしたのも、サウル王がダビデを殺そうとしたのも、いのちの価値を知らなかったからです。そして、それは、神様に敵対する恐ろしいことになります。ユダヤ教はマルコの屋上の間の人々や初代教会をつぶそうとし、ローマカトリックはい

のちを回復しようとした宗教改革者を異端にして殺そうとしました。いま、キリスト教会は、95%は、すべての宗教に救いがあると言い、5%は、いのちではなく、道徳と倫理を主張しています。その中で、いのちの祝福を回復させて、世界福音化するように、神様は導かれますが、そのような人々は、必ず異端の汚名を着せられます。

いのちではないものには、価値はありません。この世界に命がけで執着することはないのです。いのちをもたらないことから、Uターンして、いのちの祝福に集中しましょう。いのちの祝福を喜びましょう。キリストの血によって回復したいのちの祝福を受け入れ、味わい、あかししましょう。三位一体の神様、御座の祝福が私のものであると、いのちの祝福に集中しましょう。393の祈りによってすべてに答えが見えるようになります。霊の状態が形成され、現場に行っているいのちが絶対に必要な人がいるので、譲り、許し、受け入れ、超越するようになります。みことばが成就して、真にすぐれたことを見分けるようになります(ペリピ 1:10)。いままでの自分は死に、キリストが生きる御座の祝福を味わいましょう。いのちの絶対必要、絶対価値に目覚める、超越のクリスチャンになるように祈りま

#### 1-マルコ 3:1-6 いのちの絶対価値

なるほど/ いのちの絶対必要とその価値を知らない、他のものに執着して虚しい人生、いのちに敵対する人生を生きることになる。

ならば/ いのちの祝福に集中して喜び、いのちが伝えられるべき絶対の上で、聖霊の導きに従おう。

#### 2部-詩篇 23:1-6 超越の人生

なるほど/ 神の国の 25 を味わうとき、24 世界を超越して、証人としての道巡礼者の道を歩けるようになる。

ならば/ これまでの限界を認め、みことばと祈りを通して 25 が 24 の中に入ってくる祝福を味わおう。